

月刊「キリスト教書評誌」

# 本のひろば

January 1  
2021

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2021年1月1日発行(毎月一回発行)第757号

● 出会い・本・人

絵本『こいぬのうんち』と権正生 きどりのこ

● 特集 キリスト教における死を考えるには

この三冊! 江口再起

● 本・批評と紹介

朴 憲郁著 現代キリスト教教育学研究 吉岡良昌

M・デ・リッター著/島田宗洋、W・R・アーデ訳

わたしたちはどんな医療が欲しいのか? 鹿島友義

宮本久雄、石井智恵美編

押田成人著作選集2 石原明子

マックス・ルケード著/日本聖書協会訳

ひと時の黙想 主と歩む365日 大田裕作

M・S・M・スコット著/加納和寛訳

苦しみと悪を神学する 芳賀 力

川上直哉訳著 P・T・フォーサイス 聖なる父 小嶋 崇

日本新約学会編 イエスから初期キリスト教へ 石橋誠一

住谷 眞著 神曲つれづれ 春日いづみ

近刊情報

書店案内

# ケノーシス

サリー・マクフエイグ著 / 山下章子訳

大量消費時代と気候変動危機における  
祝福された生き方

11月25日

自己を空しくするという生き方。エコフェミニスト神学を力強く牽引してきた著者の、生前最後となった渾身の書。ヴェイユ、デイラ、社会の外的変革と霊性の内的深化とを結びつけた先達の生き方に学び、危機の時代の新たな倫理と死生観を探る。

◆A5判・本体4000円

# ただ一つの契約の弧のもとで

武田武長著

ユダヤ人問題の神学的省察

12月21日

ホロコーストを生んだユダヤ人憎悪と排除。それはキリスト教の内部に神学的に構造化されている。本書は、新約聖書の厳密な釈義と論争史の丹念な追跡によって、反ユダヤ主義の誤謬を別抉し、併せて契約に発する救済史の新たな捉え直しを迫る労作である。

◆四六判・本体2400円

# 創世記Ⅱ カルヴァン旧約聖書註解

11月25日



ジャン・カルヴァン著 / 堀江知己訳 (ほりえ氏は日本基督教団前橋中部教会牧師)  
本巻は24章以下(イサクからヨセフまで)を扱う。宗教改革者の釈義の真髄を伝える創世記註解、36年ぶりの邦訳完結。なお、Iの初版を持つ読者や愛書家のために、函入上製本を限定100部制作します。専門書店にご注文下さい。

◆A5判・並製・本体4500円 / 上製函入・本体6000円

既刊 創世記Ⅰ (オンデマンド版) 渡辺信夫訳 ◆A5判・並製・本体4600円

# クリスマス 激動の半世紀間の10の降誕使信

カール・バルト著 / 宇野元訳 28年から62年までのメッセージを精選。 ◆小B6判・本体1400円

# 日韓キリスト教関係史資料Ⅲ

1945—2010

富坂キリスト教センター編

日韓の貴重な資料400点以上を収録。日本敗戦から日韓基本条約締結までの交流を第Ⅰ部、韓国民主化闘争と日韓連帯の動きを第Ⅱ部、戦後補償問題を含む日韓の交わりと統一への模索を第Ⅲ部とする。とりわけ民主化運動資料は他の追随を許さぬ充実。

11月25日

◆A5判・本体15000円





# 絵本『こいぬのうんち』と権正生

クワンジョンヨンセン

きどりのりこ

児童文学に長く関わり、多くのすぐれた物語や絵本に出会ってききましたが、何とも思い出深い一冊の絵本は『こいぬのうんち』（平凡社）なのです。韓国の児童文学者権正生の物語にチョン・スングクが絵を描いたこの一冊を日本で出版するため、翻訳者で在日の作家下記子さんと私は文字通り東奔西走して、ようやく平凡社からの出版に漕ぎつけたといういきさつがありました。「こいぬのうんち」は一九六九年韓国の第一回キリスト教児童文学賞を受けた、権正生の初期の作品で、主人公は子犬が石垣の隅にした小さなうんち君です。「汚ったねえー」とみんなに蔑まれるだけのうんちが、たんぼぼの芽と出会い、地中に溶けて養分となり、やがて春の日にきれいな花を咲かせます。最も低くせられているものが大きな愛の力を発揮する物語です。

やさしくほほえむ たんぼぼのはなには こいぬの  
うんちの あいが いっぱいいっぱい つまってい

るのですた（下記子訳）

チョン・スングクの絵は、地中で分解され生命を育てる力になっていくうんちを幻想的に描いています。

一九三七年生まれの権正生は、生涯、肺結核などの病苦とたたかいつつ、安東のキリスト教会の鐘撞きとして教会の一隅に住み、日曜学校の教師もしながら、貧しい生活の中で多くの童話を書き続けたのでした。作家李五徳たちの推挙により作家としての道が開け、『モンシル姉さん』や『わら屋根のある村』などの長編も日本でも紹介されています。いつも、困難な状況にある子どもたちに目を注いでいた作家でした。著作の印税を使わずにとっておき、貧困や戦火の中にある世界の子どものために使ってほしいと遺言し、権正生は二〇〇七年に世を去りました。

お隣の国のすぐれた児童文学作家であり、キリスト者であった権正生とその作品を知っていただければ嬉しく思います。

（きどりのりこ＝児童文学作家）



## キリスト教における死を考えるには

# ▼この三冊！

## 江口再起

(えぐち・さいき・ルーテル学院大学・神学校ルター研究所所長)

死は人間にとって厳粛な究極の事態

である。それゆえ容易には語れない。

E・ユンゲルは次のように言う。「人は死をそれ自体から知ることはできない。死は沈黙している…。もし死について語ることができるとするならば、それに関する言葉はそれを越えたところから来なくてはならない」(『死・その謎と秘義』新教出版社、絶版)。死を越えたところからくる声とは、キリスト教的に言えば「復活」の声だろう。そこを丁寧に考えてみたい。

たのだ。しかし「死はなかった」という。どうということなのだろうか。

### ハイデガー『存在と時間』

ハイデガーは二〇世紀最大の哲学者といわれ、著書『存在と時間』はその金字塔である。もともとは神学生であったが、やがて哲学者として登場。そうしたわけで初期の講義にはアウグスティヌスやルターを考察したのもある。つまり、キリスト教が問う問題を哲学概念で徹底して考え抜いたとも言えよう。死をめぐる問題である。

ハイデガーは、人間を「死に臨む存在」と捉える。『存在と時間』の第一部第二篇の一―二章で集中して死の分析がなされ、先の『イワン・イリツチの死』にもふれられているが、彼は死を次のように定義する。

「現存在(人間のこゝろ引用者)の終わりとしての死は、現存在の最も固

その当人にとっての切迫性である。こうしたことだが、さすが文豪、実にリアルに描かれる。しかし、やがて意外なかたちで死が訪れる。

「馴染みになつてゐる死の恐怖をさがしたが、見つからなかった。……なぜなら、死がなかったからである。死の代わりに光があった。……これらはすべて彼にとって、ほんの一瞬の出来事であったが、……しかし、そばにいる人にとっては、彼の臨終の苦悶はなお二時間つづいた。……「いよいよお終いだ！」誰かが頭の上で言った。彼はこの言葉を聞いて、それを心の中で繰り返した。『もう死はおしまいだ』と彼は自分で自分に言い聞かした。『もう死はなくなったのだ。』彼は息を吸い込んだが、それも中途で消えて、ぐつと身を伸ばしたかと思うと、そのまま死んでしまった」(二〇二頁)。

イワン・イリツチに確かに死が訪れ

トルストイ『イワン・イリツチの死』  
トルストイは一九世紀ロシアの文豪。『戦争と平和』など文学の世界に君臨。ところが後年、精神的危機に陥り、独特のキリスト教信仰に至る(『懺悔』、『要約福音書』など)。

『イワン・イリツチの死』の荒筋はこうである。ロシアの一地方判事が、不治の病にかかり肉体的にも精神的にもひどく苦しみ、死の恐怖と孤独に直面する。家族も心配し看護するが、本人の苦しみにはとおく届かない。死の

それについて不確定な、追い越すことのできない可能性である」(三八六頁)。

こういうことである。死とは、人間にとって最も固有なものであり、その死を人は一人で体験せねばならず、かつ避けることは決してできない、そしてそのようなものとして死はいつやつて来るのかわからず、その上、誰もが生きていく限り前もっては体験しえない、というのである。ここには死のもつ切迫性がにじみ出ている。その上でハイデガーは、そういう死を、人はともしると隠蔽しようとするが、しかしそうであつてはならず、自分の死の可能性を了解し覚悟して生きる、つまり「死への先駆的決意」を持つて生きるべきだと語る。

しかし実はこの『存在と時間』は中断し未完におわる。その間、彼はナチスに入党、挫折。ここは慎重な物言ひが必要だが、人間のもつ決意性の性格

が関わっているであろうか。今日議論されているところである。

だが彼はその後、死後公刊されたのだが、第二の主著『哲学への寄与』を書き綴っていた。その中に不思議な言葉が出てくる。「最後の神の目配せ」。最後というのはたんに時間的なことなく究極の、ということだが、死の問題を人の決意性に集約させたハイデガーが、ここにきて最後の神に言及するのである。この神とは何者か、そして目配せとはどういうことだろうか。

ルター「死への準備についての説教」

(『ルター著作選集』所収)

ルターはバストの時代に生きた。死が身近な時代である。彼は死をテーマに「詩編90編の講話」や「死への準備についての説教」を書いているが、後者の「説教を取り上げる。説教といってもザクセン選帝侯フリードリヒ賢公のために書物として書き下ろされた説

教である。

さて、この「説教」には三つのポイントがある。第一、「死はこの世からの別れである」。これはハッキリしている。ルターは実際的なことを書く。財産問題は整理しておく事、喧嘩している人とは仲直りしておく事。そして第二、「こうして地上のあらゆる人々に別れを告げたあとは、ただ神のみをみてあてとしなければならぬ」(五二頁)。なぜなら「死の道は神へと通じている」からである。結局、これがすべてとも言えよう。死の道は神へと通じる。それゆえ「私たちが死に臨んだときに、不幸を払いのけて、死後になお大きな世界と喜びとが存在することを知っていなければならぬ」(五二頁)。つまり「死を(神の)生命において、罪を(神の)恩恵において、陰府を(神の)天において見るようにする」(五七頁)。そして第三、結論「喜んで死の前に出

ることができる」(六九頁)。ルターは、喜んで死ぬ、死とはそういうものだ、と言うのである。

何かいきなり、きっぱりと極端な結論がでてきた。喜んで死ぬ。なぜか。もう一度、考えてみよう。ルターの神学はよく「十字架の神学」と言われる。つまり、キリストの死の神学である。「十字架の神学」と言うとき要諦が二つある。一つは十字架とは、キリストが背負った十字架を意味すると共に、そこで同時にキリスト者が背負うべき十字架も考えねばならぬということ。そして第二に、十字架は同時に「復活」とメダルの裏表の関係にあるということである。すなわち「十字架の神学」は「十字架と復活の神学」ということになる。

しかし問題は復活とは何か、である。そこがハッキリしていないと復活もキリスト教の空疎な決まり文句として心に響かない。ハッキリさせよう。復活

とはドラキュラ伯爵のように棺桶から死人が生き返ったというようなことでも、またある人の心の中で死者がリアルなイメージとしてありあり浮かび心の内で語りかけてきた、というような事でもない。そうではない。では、どういうことか。ルターは私たち人間は、生きる(そして死ぬ)この現実を二重に生きるると語る。二重に生きるとは、ルターの用語で言えば「人の前」で生きる、かつ「神の前」でも生きるののである。そして死んで復活するとは「人の前」を去って(つまりこの世と別れ)、「神の前」に全面的に入りゆくことなのである。別様に表現すれば、神という出来事に全面的に包まれゆくことなのだ。これが死であり復活である。

つまり死とは、死んで復活することである。ルターはこのことを「死の死」と表現した(「ロマ書講義」[WA・51, 332])、「ガラテヤ大講解」[WA・40/1,

40]。「死の死」、これがルターの死についての結論である。それゆえルターは喜んで死ぬと語る。死はあえて言えば、自然なことであり悲しむことはないとも言えよう。しかし、そうであっても13才の娘を亡くした時、ルターは嘆き悲しみこう語った。「愛するレニツヘンよ、お前はよみがえって、

星や太陽のように輝くだろう。お前は安らかにしているし、万事申し分はない、ということを知っているが、しかも実に悲しいなんてなんと不思議なことだろう」(「卓上語録」)。私たち人間にとつての死のこの不思議は、神の「秘義」となるのである。

と語り、ハイデガーは「最後の神の目配せ」と言う。そこをルターは「死の死」と表現したのではなからうか。そしてパウロは、こう歌ったのではなからうか。「死は勝利にのみ込まれた。死よ、お前の勝利はどこにあるのか。死よ、お前のとげはどこにあるのか。」(第二コリント十五章五四〜五五節)。

### 『イワン・イリッチの死』



トルストイ：著  
米川正夫：訳  
岩波書店  
1928年刊  
文庫判106頁  
400円(税別)

### 『存在と時間』



M.ハイデガー：著  
高田珠樹：訳  
作品社  
2013年刊  
A5判760頁  
6800円(税別)

### 『死への準備についての説教』



(『ルター著作選集』所収)  
M.ルター：著  
徳善義和：訳  
教文館  
2012年刊  
A5判696頁  
4800円(税別)

# 現代のキリスト教教育学を論じた 本格的な精選論文集・学術研究書

〈評者〉**吉岡良昌**

現代キリスト教教育学研究  
神学と教育の間で

朴 憲郁  
Park Heonwook



日本キリスト教団出版局

## 現代キリスト教 教育学研究

神学と教育の間で  
朴 憲郁著



本書は朴憲郁氏が日本の代表的な神学教育の機関である東京神学大学で、教会とキリスト教学校の教員養成のために二五年間の長きに亘って心血を注いで研鑽してきたキリスト教教育学の精選論文集であり、学術研究書である。六八〇頁に亘る大著は、キリスト教教育学樹立に向けて必要不可欠な視点からの論述として、ほぼ全貌を網羅していることを物語っている。章立ては、「聖書神学の視点」「教会教育の視点」「神学諸分野の視点」「神学教育の視点」「キリスト教教育学の視点」「信仰と教育の視点」「人間形成の視点」「モラル教育の視点」「キリスト教学校の視点」「社会・民族・国家の視点」の「視点」から成る十章で構成されている。これは精選論文集の体裁をとっているからであり、内容的には、キリスト教教育学の5W1H、すなわち、本質論 (what) 目的論 (why) コンテキスト論 (where) レ

ー堅信者教育そして成人教育に至るまで教育論として丁寧に論じている。ドイツで始まった「教会教育学」の学問の成立は、今後の日本の教会にもいづれインパクトを与えるに違いない。

本書の中心は第五章「キリスト教教育学の視点」である。ここでは「キリスト教教育学」の本質が論じられている。神の前で共に生き、信じることを学ぶ共同体として個教会がいかにしたらずべての人の学びの場になりうるかが問われている。西洋における近代化はキリスト教の世俗化と同時進行的であった。その世俗化時代に生きる現代人に宗教的言語が意味を持つ教授法として、象徴教授法が注目され始めた。そのことに着眼した筆者は、ビールの「象徴学習」理論やパウロ・テイリツヒの「宗教的象徴」の主張点を丁

デインス論 (when) 教師論 (who) そして方法論 (how) が網羅されている。副題は「神学と教育の間で」となっており、神学大学の養成機関として神学「教育」に力点が置かれているのは当然であるが、人文科学としての教育学や心理学との対話という意味での「教育」が含まれていることは、現代ドイツのキリスト教教育学者ニプコウの論説を説明紹介する中で明らかにされている(二六二頁)。一九六〇年代後半から起こった革命運動に伴ってキリスト教伝統も危機にさらされ、教会の中でさえ、一般の教育理論が影響を及ぼし始め、「教会教育学」の概念が芽生え始めたとの指摘は重要である(五九頁)。従って、第二章「教会教育の視点」において、筆者は、「教会教育学」の出現とその特性を論じ、神の前における信仰による学習と生の場所としての教会を論じ、教会学校における児童礼拝や受洗志願者

寧に論じている。目に見えない神の真理は言葉のイメージを通して、人間の感覚や経験に伝達されるので、「象徴化」は、学習者が実体験と理解と合意を自分のものにする基本的行為であると結論づけている(三二五頁)。この象徴学習による教授法はメディア時代の今日、児童の信仰教育を有効にできる意味でも注目されるであろう。その他の「信仰と教育」にまつわる断絶と継承の問題や、「キリスト教学校」における教授法など、紙面の都合で割愛せざるを得ない。第六章二節のみが、「です」調の文体のままであり、四四六頁に一か所脱字があった。最後に『キリスト教教育学』の標準的な教科書の出現を期待して書評を閉じたいと思う。(よしおか・よしまさ) 東洋英和女学院大学名誉教授 (A5判・六八〇頁・本体七五〇〇円+税・日本キリスト教団出版局)

# 信徒必携 改訂更新版

日本基督教団東京教区 編



現代日本にあってキリスト者が心に刻むべき姿勢を、生活のあらゆる場面にわたって解き明かす。24年ぶりに改訂。  
A6判・1400頁・5500円

NHK「こころの時代」で放送中の  
コヘレト特集にあわせて

## コヘレトの言葉 読もう

「生きよ」と  
呼びかける書

小友 聡

好評  
3刷

着目し、「今の生を徹底して生きよ」というコヘレト書の新たな読み方を示す。  
四六判・136頁・1,540円

テレビ番組情報

2021年3月まで 第3日曜午前5時~  
NHK Eテレ「こころの時代」にて

それでも生きよ  
旧約聖書「コヘレトの言葉」  
講師：小友 聡

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格10%税込)  
<http://bp-uccj.jp>

# 医療はどう変わるべきか ドイツ人医師からの提言

〈評者〉 鹿島友義



わたしたちはどんな医療が欲しいのか？  
人間中心医療を取り戻すための提言とその理由  
M・デ・リッター著  
島田宗洋、W・R・アーデ訳



医療は文化であり、その国の歴史や伝統と切り離せないと思っていたが、ドイツでも心ある医師が私たち日本の医療従事者と同じような問題に苦しんでおられることを知った。

本書の最終章は「真摯で人間的で将来性のある医療への七つの提言」となっており、これこそ著者が言いたかったことで本書執筆の動機でもあっただろうと思われる。本書の内容を短く伝えるためにこのうちのいくつかを上げて著者の主張を要約しつつ私見を述べたい。

(1) 「医療に頼りすぎてはいけない」。近年、医療が技術偏重へ傾き、特に高齢者や終末期の患者が医療によってかえって不幸になることも多い。また著者は自分の心筋梗塞経験も踏まえながら先端医療よりも予防(生活習慣の是正)が重要であることを認識されたようだ。

(2) 「医療費の公正な配分を」。医療費を国民がどう負担の教員減は目に余る状態である。卒業後も国家試験、卒業研修、専門研修と小刻みのプログラム、試験の繰り返し。試験で問われるのはばらばらの知識である。文学、歴史、芸術も含めた教養は「良い医師」の必須条件であるにも拘らず、である。

(4) 「患者にも自己責任」。先進医療、終末期医療で普及してきた自己決定権であるが、これは権利であるとともに患者の義務を伴うものでもある。

本書は、ドイツの医師ミヒヤエル・デ・リッターの代表作『わたしたちはどんな死に方をしたいのか——高度先進医療時代における新たな死の文化の提言』(島田宗平/ヴォルフガング・R・アーデ訳、教文館、二〇一六年)の続編と言えなくもない。しかしテーマも扱われている症例も

しどう配分すべきか。高度医療に過度の医療費が使われていることを憂慮し、もつと終末期医療をはじめとするケアに配分すべきと言われる。

(3) 「医師には教養が不可欠」。「まえがき」でも「医療は医学的知識と科学的知識のつぎはぎでは上手くいきません。……『良い医師』は、同時に『教養がある医師』でなければならぬのではないだろうか(二三頁)と述べられている。この点についてわが国の状況はもつと悲惨である。医師のみでなくすべての専門職の高等教育でリベラル・アーツ(一般教養)の軽視が進行している。戦前は三年間の旧制高校があり、戦後も二年間の医学進学過程が設けられていた。しかし今や教養を必要としない医学知識が膨大となり、教養学部を維持しているのは国立大学では東京大学だけとなった。地方大学のリベラル・アーツ教育

まったく異なるので独立して読めるが、両者を併読していただくとき著者や訳者の気持ちをよくよく理解できるだろう。ドイツ語からの翻訳とは思えない、軟らかく平易な日本語で読めることを訳者に感謝したい。

原著も訳書も医学関連書としてではなく、一般書として発行されている。医療のあるべき姿を医療の提供者と受け手と一緒に考えてほしいとの意向であろう。多くのキリスト者に読んでいただき、教会の中でも今後の医療について医療者と患者側の話し合いが盛んになることを期待したい。

(かしま・ともよし) 国立病院機構九州循環器病センター名誉院長、鹿児島のちの電話理事長

(四六判・三四六頁・本体二六〇〇円+税・教文館)

# 神学ダイジェスト129号

急速な変化を遂げる現代社会。その中にある多様な価値観に直面するキリスト者。本誌は海外の神学動向を紹介しながら、現代人のかかえる信仰への真摯な問いに光をあてる。

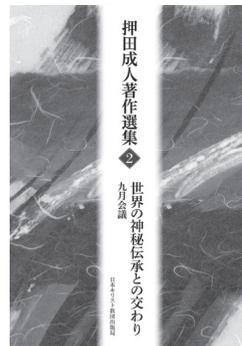
2020年12月発行  
A5版128頁  
定価640円(税込)

特集 若者と共に歩む教会  
真のシノダリティを指し示したシノダス 勝谷太治  
若者シノダスと使徒的勧告「キリストは生きています」 A・スバダロ  
霊的識別「キリストは生きています」より D・ファレス  
若者の参加に基づく青少年神学 B・レエツベン他  
教会の決定に関する若者の参加 J・M・トーマス他  
働く学校「イエズス会による学校モデル P・J・パーケス  
●連載「霊性心理」私は思ったより大丈夫 ホン・ソンナム  
●COVID-19危機関連として「パンデミック」で最も苦し  
むのは誰か「治療配分に関するカトリック的指針」の2本  
●その他「女性助祭職のもたらす変化」「新約聖書は  
「同性愛」を禁じているのか」「朝鮮半島南北教会の交流」

上智大学神学会  
神学ダイジェスト編集委員会  
東京都練馬区上石神井4-32-11  
〒177-0044 Tel & Fax (03) 3594-4349  
E-mail shing-dt@netjoy.ne.jp

# 異なる霊的伝統が出会い 人間の危機に祈り警鐘する

〈評者〉石原明子



押田成人著作選集2

## 世界の神秘伝承との 交わり

九月会議

宮本久雄、石井智恵美編



私は、生きて押田神父と出会えていたか、それとも、あ  
れは夢だったか。記憶が正しければ、押田神父の存在が、  
私の中に小さくしかし強烈に刻まれたのは、国際基督教大  
学の学生のとさだった。徹底した無宗教の家に育ち、キリ  
スト教に全く関心がなかったが、大学で開かれた押田神父  
という人の公開講演会をふと覗いた。もう終わる直前で、  
講演全体の内容はわからないのに、そのたった十分で、そ  
の言葉に私の魂は稲妻を打たれた。

その後私は、人生の苦難に直面し、小乗仏教と出会って  
いった。仏教瞑想をするうちに、突然、聖書の意味が私の  
中に降りてきた。教会にも導かれ、キリスト者になった。

本書は、世界の多様な精神的伝統の指導者が、押田神父  
の高森草庵に集った「九月会議」の記録を中心に編まれて  
いる。他に、押田神父による関連著作も収められている。

むしろ人智を越えた神の真理がさらなる形でたち頭れ、よ  
り真理の深みへと降りてゆくような旅路がそこにあったこ  
とだ。

押田神父は、祈りは、「イ(息)+ノリ」というが、読み進  
めるごとに、指導者たちが一堂に会して交換したことばと  
呼吸の「プネウマ」が、私にも温かく迫ってくるようだっ  
た。絶望を見たからこそ集いの喜びがあった。

本書を読んで、長年解けなかった疑問に答えが与えられ  
たことがあった。「無」についてだ。仏教伝統では「無」「空」  
の大事さが説かれるが、すべてが「無」「空」では何か虚  
しくないだろうか、今ひとつ受け入れがたく思ってきた。  
押田神父の「祈りの姿に無の風が吹く」を読み、「無」と  
はなんと豊かなのか！と感動した。著作から見えた「無」

「九月会議」(一九八一年)では、日本、インド、バング  
ラदेश、韓国、米国、アフリカなど世界十か国以上の  
国・地域から、キリスト教、ヒンズー教、仏教、ネイティ  
ブ・アメリカンなどの多様な宗教・霊的伝統の指導者が集  
い、一週間ほどの時を共に過ごし、それぞれの宗教・霊的  
伝承の深みから見える現代文明への「ながめ」を分かち合っ  
た。偉大なるリーダーたちによる宗教間対話の記録ともい  
えるが、読み進めると、違いが際立つよりもむしろ、同じ  
地球に、同じ文明に生き、その文明によるいのちと人間の  
危機を憂い、祈り、行動する兄弟・同志たちの共通した悲  
しみと、それを越えんとする慈愛のみが印象に残った。

興味深いのは、それぞれの霊的伝統に深く根差して見え  
ゆく景色は、それ自体がすでに大いなる真理を表現してい  
るのに、対話を通じ、他の霊的伝統との差異に出会う中で、  
は、何物をも所有しようとしな、一つの世界観や物の見  
方から自由になる、というイメージだ。所有しようとしな  
い、固定化しないから、あらゆるものに開かれ、与えられ  
る豊かさ。本来私たちは何一つ所有できていないのに、所有  
しようとするから、苦しみが生まれる。西洋近代に発する  
現代文明の病。それは元々の西洋文化ともキリスト教とも  
別物だと説く。二〇〇三年に天に召された押田神父の警鐘  
は、その後の原発事故やコロナ問題のことまで、まるで見  
えていたかのような鋭さがある。神父はいう。観念や意識  
の世界に生きるな。根をもつことが大事である、と。

(いしはら・あきこ) 熊本大学大学院人文社会科学部准教授、  
日本福音ルーテル教会員)

(A5判・二二六〇頁・本体二七〇〇円+税・日本キリスト教団出版局)

ヨベルの新刊/既刊案内

**青野太潮** 〔西南学院大学名誉教授/日本新約学会  
副会長/平野バプティスト教団協力牧師〕 **福音の中心を求めて**

**どう読むか、新約聖書**

新書判・二四〇頁  
反響！ 本体一〇〇〇円

聖書学の常識は、信仰のヒジョウシキ。  
この逆説と乖離の荒海を、いざ航海。  
「青野先生はキリスト教の『常識』にいつも挑戦され  
ています。……しかしそれらふたつ(聖書学と信  
仰)の『常識』は、多くの場合、厳しく相対立して  
いますので、どう読むか、(本文より)」

**金子晴男** **キリスト教思想史の諸時代Ⅲ**

**アウグスティヌスの思想世界**

「ヨーロッパ思想史」  
「ヨーロッパ精神の源流」既刊

期待の第二回配本

キリスト教思想史の  
諸時代の  
「ヨーロッパ中世の思想世界」  
「エラスムスと教養世界」  
「ルターの思索」  
「宗教改革と近代思想」  
「現代思想との対決」

予約受付中！

新書判・平均240頁・  
各巻本体1,200円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F  
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858  
出版の手引き/呈 (税別)

# 静けさの中に主と共に歩む 生活を願うあなたに

〈評者〉 大田裕作



ひと時の黙想  
主と歩む365日  
日々の聖句とひと言メッセージ  
マックス・ルケード著  
日本聖書協会訳



手に取るなり、その装丁のやさしさに惹かれました。カバーの材質、色遣いが何とも温かみがあり、そのデザインから読者が長年に亘って本書を愛読することを願う制作者の心遣いが伝わってきます。ページを繰ると聖句と季節感のあるイラストが心に沁みてきます。また洗練された訳語のやさしさが秀逸です。なるほどここまで細やかな制作にこだわる内容がこの書には詰まっています。

著者のマックス・ルケード牧師は、深い霊性でしかもわかりやすい福音の提示によって知られる器です。ルケード牧師の筆致からは、天の栄光を捨て置いて地に降ってこられた主イエス様のへりくだりとその恵みが透明に伝わってきます。その物静かな言葉選びは読む私たちの自然で自発的な応答を引き出します。「このみことばのように生きてい」「このように人に接していきたい」。

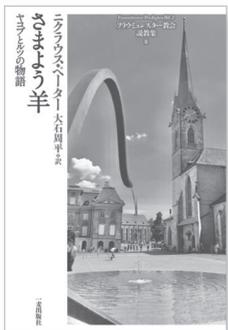
のは危険です。それは自分の好きな箇所を読むことになり、聖書全体を読まないことになるからです。：説教者は：毎年一回聖書全体を完全に通読すべきです」。しかしすべての人が説教者のように十分な時間を聖別できないのも、現代人の現実です。彼はこう続けます。「：聖書を読んでいるとき：ある節が迫ってあなたの心を打ち、あなたを捉えるなら、そこから読み進まないようにすることです。読むのをやめてすぐにそれに耳を傾けてください。そのみことばはあなたに話しかけているのですから、耳を傾けてそれに応答してください」。

評者がこの書を手にとって即座に思い浮かべたのが上述の箇所です。本書の特長はまず短い1、2節の聖句が掲げられているところです。その短さが特長です。ちょうど長



# さまよう羊

ヤコブとルツの物語  
フラウミュンスター教会説教集 II  
ニクラウス・ペーター  
Niklaus Peter  
大石周平\*訳



きょうだいとの和解への道に  
突き動かされた夢みる詐欺師  
ヤコブ。しなやかに、かつし  
たたかに生きる寄留の未亡人  
ルツとナオミ。さまよう羊に  
約束された神の祝福のものが  
たり。私たちがふだん語り合  
う言葉で説き明かされる。

四六判  
定価【本体1,600+税】円  
ISBN978-4-86325-127-4



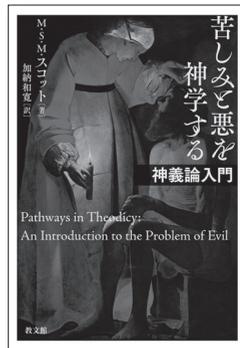
株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10  
TEL (011) 578-5888  
http://www.ichibaku.co.jp  
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

い通読の途中に立ち止まり黙想を始めるように、本書により読者は一つの聖句の前に静まります。精選された短い聖句ゆえに心に残り、屈き、刻まれるのです。そして下段には、ルケード牧師のみことばに呼応する祈りの言葉や先達としての悟り、助言、自戒などが続きます。その語りかけは読者の傍らを共に歩む同伴者としての響きです。その同じ目線での語りかけが優しいのです。間に挟まれたイラストが絶妙の落ち着きを醸し出してくれます。森の中で音もなく移り変わる季節にハツとするような控えめな風物のイラストが、月ごとに読み進むうれしさを加えてくれます。本書があなたの手に届き、その生活に静けさと潤いをもたらすことを信じてお勧めします。

(おた・ゆうさくIIアンテオケ宣教会総主事)  
A6判変型・四〇四頁・本体一八〇〇円+税・日本聖書協会

## 神義論は現実の生活と どんな関係があるのか？

〈評者〉芳賀 力



苦しみと悪を神学する  
神義論入門  
M・S・M・スコット著  
加納和寛訳



「今日一日を終えるにあたり、神義論は『現実の生活』とどんな関係があったと言えるでしょうか。その日に経験した苦しみを少しでも良くしてくれただでしょうか（二一八頁）。神義論はしばしば私たちの生の現実を遊離した空虚な議論のように思える。しかし議論を放棄したとしても、苦難の現実が消えるわけではない。そして本来の神義論は切実な信仰の問いから発せられる実存的なものなのである。本書は特定の神義論だけを正しいとしたり、勧めたりするものではなく、できるだけ公平に論点を紹介しようとするものである。著者によれば、今こそ神学が神義論について語る時であり、神学が神義論を取り戻すべきなのである。主要な神義論の試みが六つ取り上げられる。

第一の自由意志による擁護論は、古代ではアウグスティヌス、現代ではプランティンガによって代表される。神はみを感じない全能の神も却下される。神は愛であり、被造物と共に苦しむ存在なのである。

第四の十字架の神義論は、ボンヘッファーやモルトマンに代表されるもので、第二次大戦下ホロコーストの衝撃的経験が影響している。長い間神学は神の不動性、不受苦性というギリシア的な神概念の支配下にあった。しかし聖書の神はパッション（情熱、受苦）の神である。神が受苦不能であれば、神はまた愛することもできない。ゴルゴタとアウシユヴィッツは神性の深みにまで達している。これは、ぬかるみの中で苦しむ者に大きな慰めを与えるものだが、そうなる神を私たちと一緒にぬかるみに投げ込んでしまふことにならないかどうかという疑問が残る。

第五の反神義論は、理論的な神義論の無力さと失敗を指

人間を自由な存在として創造した。その自由を人間が誤って用いたことよって悪が生じたとされる。自由意志がないと世界は完全とは言えない。自由ではない生き物しかない世界より、自由な生き物がいる世界の方が良い。神が悪を許す理由がここにある。

第二のソウル・メイキング神義論はジョン・ヒックに代表されるもので、痛みや苦しみは魂を修煉し、道徳的、霊的、知的な成長を促すために必要なものとされる。神は初めから完成された人間を創造したのではない。私たちはまだ創造の途上にいる。ヒックはこれをエイレナイオス型と呼んだが、スコットによればそれは誤りで、むしろ普遍救済説に立つオリゲネスに近い。

第三のプロセス神義論は、神の超越性を否定する。神は被造世界に内在し浸透している原理である。そこから苦しみ、実践的な方向に舵を切る。なぜ悪があるのかではなく、どう悪と戦うかが重要とされる。しかし理論なしに実践はない。

第六の終末論的神義論は、現世での不協和音は来世において協和音に変わることを期待する。隠れた神の神秘を今は重んじるべきなのである。

原著の題名は「神義論の『様々な』道」である。それを紹介することは意味のないことではないが、やはり理論体系的の羅列という印象を拭えない（しかも道は他にもある）。ぜひ著者の「我ここに立つ」という直球勝負の神学的確信を聞きたく思った。その方がかえって（賛否を含め）議論が深まるのではないだろうか。訳者の労を多としたい。

（四六判・三六四頁・本体三六〇〇円＋税・教文館）

新刊

越境する宗教史  
【下巻】  
久保田浩・鶴岡賀雄 編  
林 淳・深澤英隆  
細田あや子・渡辺和子

●A5判上製 本体6,000円＋税

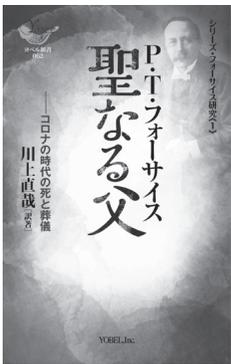
鶴岡賀雄「宗教」を越える／木塚隆志神秘主義と黙示録的終末観／出村みや子古代アレクサンドリアの学術研究の系譜に見る「越境」の問題と「芸術宗教」／細田あや子越境する賢者アダバ／渡辺和子越境する粘土板文書と神／月本昭男大島清先生と大島基金の創設／渡辺和子〈新生〉宗教史研究会と宗教史学論叢／総目次／他11篇

LITHON [リト]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402  
☎ 03-3238-7678 FAX 03-3238-7638

# P・T・フォーサイスを 二世紀にどう読むか

〈評者〉小嶋 崇



P・T・フォーサイス  
聖なる父  
コロナの時代の死と葬儀  
川上直哉 著



この書評の文章を読んでいただけでは分かるように、専門的で批評的なコメントは少ない。そもそもフォーサイスの名前は聞き及んでいるが、説教や神学エッセイの別に関わらず彼の文章を一つたりとも読んだことのない者が評者を引き受けたのには、かすかにフォーサイスへの関心があつたからと言えなくもない。一通り読んで抱いた率直な印象をまず述べておこう。

本のタイトルが示すように、フォーサイスは「父なる」神の「聖性」を「キリストの贖罪」との間でどう関係づけるかに多大な関心を寄せている。一方で「父のような神の愛」の人間中心的で感傷主義的な理解への懸念を持っている。他方で超越的な「神の聖性」への問題意識を持っている。神の属性として見た場合の「愛・慈悲」と「聖性」はどう一つの人格の中で統合されるのか。そういう神論的な

課題がある。

もう一方で人間の罪に対する「神の赦し」が孕む「正義」対「罪性」という困難な贖罪論的課題がある。

旧約聖書の限界はここにあらわです。旧約聖書が語る「父のような神」は、代償を求めません。また、犠牲を払いませぬ。これは新約聖書と対照的です。新約聖書の語る神、つまり「聖なる父」という神は、ゆるしの代償を求め、そしてご自身でその犠牲を引き受ける神として表現されているのです。(四五頁)

一八四八年生まれのフォーサイスは、一八七六年から一九〇一年までの二五年間を牧師として過ごし、それ以後一九二二年に亡くなるまで神学校で働きながら神学だけに

とどまらない幅広い出版活動を展開する。(本書のイントロに一九〇一年になされたフォーサイスのインタヴューが収録されている)。

フォーサイスが問題視する『「父のような神」の矮小化』は、一方で自由主義神学の隆盛や世俗主義の進行と深く関わり、他方で伝道熱心で言葉の多さや巧みさで福音を安売りする説教や神学が背景にあるように思う。

社会的配分を公平にすることに、私たちは神をこの世の裁判長としてしまいつつあるようです。また、それへの反動が生まれ、縮まりのない甘すぎる愛を神に求める方向へと進む向きもあります。実に、神の聖性という概念は私たちの助けとなります。私たちはこの概念によって、霊的にも人格的にも一定水準を超えて引き上げられ、「父性的聖性」とでもいうべきものへと進むことができるのです。(四六頁)

福音に触れば触れるほど、このキリストの沈黙が印象深く思われてきます。私たちの周りには、魂を得

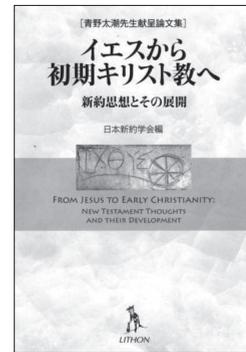
ようとして熱烈に飢え渇くタイプの人々がいます。宗教的熱情に燃え、伝道にはやり、忍耐を失った敬虔さを示す人々がいます。そうした人々は弁舌爽やかで、活動的です。……エネルギーに溢れてしまつて、靈感に乏しくなっている。何でも表現しようとして、すぐ言葉を発し、行動に移す。(二〇五頁)

本格的な神学議論というよりカンバセーションナルで社会や生活の實際例をふんだんに用いたフォーサイスの小著は、しかしなかなか深く掘り下げられた論考という感想を評者は持った。川上氏による訳と註、さらに神学的考察を實際に適用した解説(「現場の神学」)「コロナの時代と死と葬儀——「聖なる父」の現代的意味」はその意味でフォーサイスの神学的実践の今日の実験として本書の意義を豊かにしている。

(こじま・たかし 異鴨聖泉キリスト教会牧師)  
(新書判・二二六頁・本体一〇〇円+税・ヨベル)

# 最新の議論を知る一冊

〈評者〉石橋誠一



青野太潮先生献呈論文集  
イエスから  
初期キリスト教へ  
新約思想とその展開  
日本新約学会編



本書は日本新約学会が、第四代会長を二〇〇九年九月から一七年九月〔献呈の辞〕と「あとがき」にある「二〇一六年春」は間違いとのこと）までの八年間務められた青野太潮先生への献呈論文集として編んだものだ。編集意図や青野先生の業績については、第五代会長を務めておられる大貫隆先生の愛に溢れた「献呈の辞」に詳しい。また、青野先生の詳細な履歴・業績一覧も付されている。日本新約学会はじめ諸所で精力的に活動されている方々による一八本の論文が収録されているが、紙幅の関係で全部は紹介できない。私が特に関心を持った数本を紹介したい。

第一論文の「イエスと初期ユダヤ教神秘主義」は、青野先生と「畏友」と呼び合う大貫隆氏によるものだ。「復活問答」と呼ばれるマルコ二・一八―二七の、復活者は「天使のようになる」との言葉に表れるイエスの「復活」のイメージ

が、聖書神学の常識の、身体と魂を一体的に考えるヘブライ的人間観に反することをいかに解決するか。氏は「アブラハムの遺訓」などイエスに相前後する時代のユダヤ教文献に見られる「上昇の黙示録」のイメージがイエスのイメージ・ネットワークの中に独自のしかたで組み込まれていることを示される。その上で上記の問いにどう答えておられるかは、「むすび」を読んでいただきたい。

同じ「復活問答」について、それを伝えるルカ福音書の編集意図を探った論文が、大澤香氏の「神の所有としての『生』」である。大貫論文とは関心が大きく異なり、復活についてイエスがどう捉えていたかということには一言も触れられていない。福音書執筆に際して中心的な資料としたマルコ福音書を、ルカはどう改変し、その意図は何だったのか、そこにルカのどのような神学的思想が見出せるかとい

う「編集史研究」と言える。氏は、ルカ福音書に固有の二〇章三八節にある「神によって生きる」と訳されたギリシヤ語の表現が七十人訳聖書やフィロン、パウロなどの先行文献でどう使われているかを丹念に調べ、ルカがこの句を加えた理由は、女性の命が「男性の所有」ではなく「神の所有」であるとの関心を表明するためだったと結論する。青野先生のご専門のパウロ書簡に関するものでは、大川大地氏による「パウロにおける『自己ステイグマ化』の戦略」が面白かった。自己ステイグマ化とは、社会の中で否定的な価値付けをされた（ステイグマ化された）者が、ステイグマを逆に誇示することで自己の社会的な影響力（カリスマ）を拡大させることを言うそうだ。ガラテア四・一二―一五とフィリピ二・二五―三〇（二八八、二九〇、二九一頁

に一箇所ずつ、二章とすべき所が四章と誤記されている）を取り上げ、パウロが弱さ（ステイグマ）を戦略的に「用いる」ことで、自らとエバフロデトスをカリスマ化したとする議論は、青野先生が繰り返し主張してこられた「十字架の逆説」を生きている信徒の生の具体を、非常によく示しているように思われる。元ホームレスの方々自身が野宿経験を語ることで子どもたちに「生きてささいいば、いつか笑える日が来る」と伝えている「生笑一座」の活動（NPO法人 抱樸のホームページ参照）も、自己ステイグマ化の例と言えるのではないかと思わされた。新たな視点を与えられたことを感謝したい。

（いしばし・せいいち＝東八幡キリスト教会牧師）  
（A5判・四三八頁・本体五〇〇円＋税・リットン）



## 聖霊と霊性

心の深みで

栗田英昭  
KURITA Hideaki



三位一体の神である  
聖霊の働く場所は  
人間の霊性。  
場所的聖霊論。

A5判・上製  
定価【本体3,800＋税】円  
ISBN978-4-86325-125-0



株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10  
TEL (011) 578-5888  
<https://www.ichibaku.co.jp>  
携帯 [mobile.ichibaku.co.jp](https://mobile.ichibaku.co.jp)

生き生きと伝える  
『神曲』の魅力

〈評者〉春日いづみ



神曲つれづれ  
住谷 眞著



イタリヤのある文芸評論家が、イタリヤ最高の詩人は、

今以てダンテだと言うのを聞いた。七百年前の詩人の名に驚いたが、ロダンの「地獄の門」をはじめ、ボッティチエリやドラクロワの絵画、アンデルセンの『即興詩人』など、芸術、文学作品に多大な影響を与えていることを改めて思ったことであつた。住谷眞氏は『神曲』を子ども向けのアレソ本にされているが、このほど刊行された『神曲つれづれ』は、『神曲』の各歌にまつわるさまざまな所感をエッセイとしてまとめている。住谷氏の所属する短歌結社、ナイル短歌工房の月刊誌「ナイル」に連載したものに加筆訂正をしての刊行である。筆者も「ナイル」が届くとすぐに冒頭を飾るこのエッセイを読むのが楽しみであつた。フィレンツェの歴史、当時のダンテの置かれた状況、キリスト教の腐敗、登場人物の身の上など、懇切な解説のお蔭で

『神曲』が親しいものとなつた。

『神曲』には多くの人物が描かれているが、生前の罪科に相応して冥界の居場所が下される。罪の種類もさまざまで、「地獄篇」では、日和見主義、汚職、高利貸し、武器商人、裏切り等々、実名で書かれている。地獄、煉獄、天国、それぞれの場所へと審判を下す物差しは聖書であるが、ダンテを不遇に追いやつた人々も描かれていて興味深い。七百年以上を経た現代の世界の情勢、人間の在りようがまったく現代と変わらないことに呆然とする。住谷氏はそうした点についても視野の広さ、古今東西の知識を以つて、イタリヤだけではない世界の荒野へと読者を導いてくれる。

炉の火燃ゆフランチェスカのこの中にありとも見えて  
美しきかな  
与謝野晶子

こういつた『神曲』から着想を得た、もしくは住谷氏に

『神曲』を連想させる万葉から近現代の和歌、短歌も紹介されている。ダンテはラテン語ではなくトスカナの地方語で『神曲』を書いたということの意味を住谷氏は強調する。日本にあつて日本語教育がいかに重要であるか、外国語教育に力を入れる現在のあり方を危惧している。短歌は日本の土壌に育まれた詩型であり心の器であることを、住谷氏は自らの歌作の体験を通し首肯してきたことが窺われる。『神曲』と和歌、短歌の取り合わせは文化の交わりを深めるものである。「煉獄篇」第十一歌、第二十歌の所にそれぞれ「派遣意識」、「恩寵の内在」というダンテの自己意識についての住谷氏の見解があり、興味深かつた。神から使命を与えられた、恩寵が自らの内に宿ると意識するダンテ。だがそれは彼の高慢さ故ではなくむしろ「自分があ

特別な使命を与えられて、ある場所に派遣されている」という派遣意識と自身に内在する恩寵を謙虚に意識してのことだと住谷氏は述べている。才能は神からの賜物であり、それを意識する時、困難をも受け入れ、大きな働きができるようになるのと住谷氏の熱いメッセージも感じた。「天国篇」は肉体を持たない魂の世界になり、ダンテの問いにベアトリーチエや聖人たちの問答が中心だが、住谷氏は自らの体験や見聞が育んだ見識を述べ読者を引き込む。その態度はリベラルで、未来の人間の行方を常に見据えている。牧師として、また聖書研究や翻訳に携わる住谷氏の真価の光る一集である。

(かすがいづみ 歌人)  
(A5判・一五四頁・本体二五〇〇円＋税・一麦出版社)

キリスト教の歴史を概観する  
最良の入門書



キリスト教史の学び

日本基督教団教師  
同志社大学キリスト教文化センター教員  
越川弘英 著



キリスト教の母体となつたユダヤ教の歴史から、キリスト教の誕生と発展、古代ローマ帝国時代から中世ヨーロッパにおける「キリスト教世界」の成立。そして宗教改革を経て近現代の、バルト、ボンヘッフアー、マザーテレサ、教皇フランシスコの時代まで。それぞれの時代の社会におけるキリスト教会の存在と活動、その中で重要な働きを担った象徴的な人物の働きや思想を取りあげながら、キリスト教の通史を分かりやすく解説する。



【上巻】A5判・312頁  
本体 2,000円＋税  
【下巻】A5判・346頁  
本体 2,200円＋税

キリスト新聞社 since 1946  
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
AVACOビル6階 TEL 03-5579-2432

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jb-shop.com	sasaki@jb-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zeninkan_syoten_0530@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・1771F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	〒新中延町2-2 榎ヶ丘センタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	00160-2-18410
アパコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taisindo-books.jimbdo.com/	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3567-1995	03-3567-4435	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.bigobee.jp	sksch@mva.bigobee.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunshala.coccan.jp/	nagoya-seibunshara@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-584
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびびるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-945-9388		kobex@mikikihan.co.jp	00170-2-421390
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一丁目1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/masujama_1007/mexim	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用		kbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	903-0207	沖縄県読谷郡読谷777	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※ 一般書店関係の方は、日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

## ■新教出版社

### ジーザス・イン・デイズニールランド

——ポストモダンの宗教、消費社会、テクノロジー

デイヴィッド・ライアン 著

大畑凜、小泉空、芳賀達彦、渡辺翔平訳

世俗化論の想定に反して、ポストモダンの消費・情報・技術社会で開花する混濁的な宗教実践。そのメカニズムを社会的に分析し、これからのキリスト教倫理が果たすべき使命をも開示した、監視社会論の泰斗による異色作。

四六判・336頁・本体予価3500円

### ヒップホップ・アナムネーシス

——ラップ・ミュージックの救済

山下壮起・二本信編著

キリスト教の限界を乗り越える音楽文化としてヒップホップを描いた衝撃作『ヒップホップ・レザレクション』の続編登場。気鋭の執筆陣の論考、BLMと共闘する黒人牧師の説教、BADAUKUSH、田島ハルコ、J.Columbusら六名のアーティストのインタビューを収録。

A5変型判・264頁・本体予価2500円

## ■日本キリスト教団出版局

ナウエン・セレクション

### アダム 神の愛する子

ヘンリ・ナウエン著／宮本憲訳／塩谷直也解説

ナウエンは自らの「居場所」を求め続けた。彼の深く傷ついた心を変えたのは、ここでは意思を表現できない青年、

アダムとの出会いだっただ。アダムのケアに四苦八苦するうちに、ナウエンはついに「居場所」にたどりつく。塩谷直也氏による書き下ろし解説を加えて待望の復刊。

四六判・192頁・本体2000円

### 風は思いのままに

——聖書黙想31日

山本将信著

西片町教会の牧師を長く務め、長野での牧会の傍ら、キング牧師の研究や農業を営むなど多彩な活動を行った山本将信牧師のメッセージ集。西片町教会の「月報」の巻頭メッセージ、教員・支援者にメール配信した月刊「おとづれ」に掲載されたメッセージより31日分を精選。

四六判・136頁・本体1400円

### 救されて生きる

——山本将信説教集

山本将信著

山本将信牧師の説教集。証しの説教「救われて生きる」のほかに、講解説教としてマルコによる福音書7編、「主の祈り」7編、「種まきのたとえ話」5編を収録。

四六判・136頁・本体1400円

## 香港の民主化運動と信教の自由

松谷暉介編訳

2020年6月に施行された国家安全維持法の下、拘束や逮捕の報道が絶えない香港にある教会の現状と、「信教の自由」のために奔走するキリスト者の声を紹介。

A5判・192頁・本体1800円

# 福音と世界

## 2021年1月号

特集 教育はいま 「知」の構造を問う

寄稿者 岡山茂、井野瀬久美恵、松田太希

渡辺大輔、澤井瑠里、荒川朋子

新連載 福音のフラグメント(有住航)・霊性のエコロジーあるいはアニマ・マテリア(村澤

真保呂)／特別寄稿 二〇二〇年米大統領選をめぐって(安田真由子)／好評連載 1. *Seven Little Prayers* 開かれる世界(栗田隆子)、教父

学入門(上井健司)、第二メモテ書(辻学) ほか

A5判・本体600円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyō-pb.com

### 編集室から

本誌巻頭エッセイ「出会い・人

人」では、人と本との出会い、人と人との出会いが、いかに人生の転機をもたらしたかが語られています。二〇二〇年五月号では、田

本との出会い、人との出会いを「宝探し」に例えています。その通り、四月号には、浦上充氏(日本基督教団東中野教会牧師)が、『祈りのともしび』平野克己編、日本キリスト教団出版局刊、との出会い、一〇月号には吉川直美氏(シオンの群教会牧師)が「疲れ果てた末にたどり着いた一冊の聖書」について言及しています。二人とも、宝物としての本に出会われたのです。しかし、いきなり出会ったのではありません。出会うまでの道のりと、紆余曲折について

### 予告

#### 本のひろば

2021年2月号

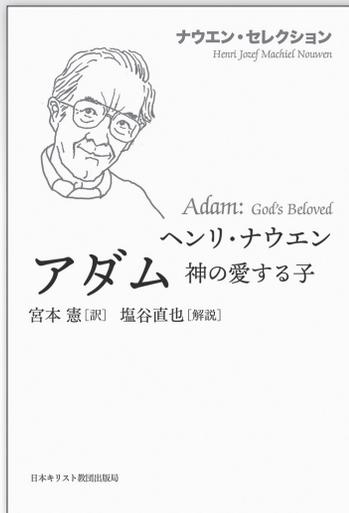
#### 本・批評と紹介

(巻頭エッセイ) 友野富美子、(書評) 加藤一二三著『だから私は、神を信じる』、黒鳥偉作著『病と信仰』、大和昌平著『牧師が読み解く般若心経』、山口希生著『神の王国』を求めて、『加藤常昭説教全集35 新約聖書書簡の説教1』、勝村弘也著『今さら聞けない! キリスト教 旧約聖書編』金子晴勇著『キリスト教思想史の諸時代1』、ラリー・クラブ著『人を理解する』他

語っておられます。

また十一月号には、北村裕樹氏(日本基督教団武蔵野扶桑教会牧師)が、「いつか来る二回目のために」と題して、断捨離できない本について軽妙洒脱な語り口で記述しています。私も十年前に読んだ時には理解不能だった本を、十年後に読み返すと、すんなり腑に落ちる経験をしました。おそらくその間の人生経験によって、受け入れる素地が出来上がっていたのでしょう。断捨離できない蔵書を見つめながら、「いつか来る二回目」の読書による出会いを楽しみにしています。(寺田)

人生を変えた障害者との出会いをつづった、ナウエンの絶筆を復刊



ナウエン・セレクション

# アダム 神の愛する子

ヘンリ・ナウエン

宮本 憲 訳 塩谷直也 解説

第2回  
配本

「居場所」を求め続けたナウエンは、ことばで意思を表現できない青年アダムと出会い、そのケアに四苦八苦するうちに「居場所」にたどりつく。書き下ろし解説を加えて復刊。

◆四六判 並製・192頁・2,200円

2020年12月11日刊行予定

シリーズ  
好評発売中

『今日のパン、明日の糧 暮らしにいのちを吹きこむ366のことば』 2,640円

西片町教会の牧師を長く務めた

## 山本将信牧師の メッセージ集と 説教集を同時刊行

ともに2020年  
12月14日  
刊行予定

メ  
ッ  
セ  
ー  
ジ  
集

### 風は思いのままに 聖書黙想31日

西片町教会の「月報」の巻頭メッセージ、教会員・支援者にメール配信した月刊「おとづれ」に掲載されたメッセージより31日分を精選。

◆四六判 並製・136頁・1,540円

風は思いのままに  
聖書黙想31日  
山本将信



赦されて生きる  
山本将信説教集



説  
教  
集

### 赦されて生きる 山本将信説教集

証しの説教「赦されて生きる」のほか、講解説教としてマルコによる福音書7編、「主の祈り」7編、「種まきのたとえ話」5編を収録。

◆四六判 並製・136頁・1,540円

キリスト教古典叢書

# キリスト教信仰

F・シユライアマハー著  
安藤敏眞 訳

近代プロテスタント神学の基礎となつた記念碑的著作



『信仰論』の通称で知られる、「近代神学の父」シユライアマハーの名著。従来のキリスト教説を全面的に見直し、教会で共有される「敬虔な自己意識」の分析を出発点として教義学の根本的再建を試みる。一時代を画した名著の初の日本語全訳が遂に完成。

● A5判・上製・函入・1112頁・本体15,000円

# アウグスティヌス著作集19／II

詩編注解(4)

荒井洋一／出村和彦／金子晴勇／田子多津子 訳



旧約の出来事を比喩的に解釈し、詩編を「キリストが直接語りかけてくる声」と捉えたアウグスティヌスが、会衆の信仰生活に具体的に適用すべく解き明かした第76-100編の説教を収録。

● A5判・上製・函入・816頁・本体9,500円

# 日本キリスト教歴史人名事典

鈴木範久 監修 日本キリスト教歴史大辞典編集委員会 編

好評発売中!

最新の研究成果や新事実を反映した約5150人のキリスト教関係者を網羅。

● B5判・函入・984頁・本体45,000円

呈・内容見本



加藤常昭説教全集36

# 新約聖書書簡の説教2

第VI期第3回配本

加藤常昭 著



隠退後に全国の教会で語った、ガラテヤの信徒への手紙、エフェソスの信徒への手紙、フィリピの信徒への手紙、ヘブライ人への手紙などの説教18篇を収録。

● 四六判・上製・384頁・本体3,300円

# 内村鑑三の聖書講解

神の言のコスモスと再臨信仰

小林孝吉 著

旧新約聖書66書と内村鑑三による講解を、神の言の宇宙に読み解く



愛娘ルツの死を通して揺るぎない再臨信仰に立った内村が、「聖書の研究」誌上に展開した珍しい聖書講解とともに、旧新約聖書を徹底し人間を希望の未来へと導く福音の水脈をたどる、信仰的批評。

● A5判・上製・470頁・本体5,300円

12月の新刊 (価格表示は税抜)

一九五七年七月一七日 第三種郵便物認可  
二〇二二年一月一日発行 毎月一回一日発行  
本のひろば 第七五七号 二〇二二年一月号

発行所 〒163-8614 東京都新宿区新小川町九-1 一般財団法人キリスト教文書センター  
電話03-3361-6520 振替0170-5112679  
発行人 金子和人 編集人 土肥研一 印刷所 佛平河工業社  
発売所 日本キリスト教書販株式会社 電話03-3361-5670

教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1  
電話 03-3561-5549 (出版部直通) (呈・図書目録)

キリスト教の書籍やCD、グッズのご注文は(e-shop 教文館)  
<http://shop-kyobunkwan.com/> まで!



定価七八円(税抜七一円) 63円  
二年分一三〇〇円(送料共)